

令和3年度

# 事業報告

令和3年4月 1日から

令和4年3月31日まで

公益財団法人 太田記念美術館

## I 公益目的事業

### 1. 浮世絵に関する展覧会の企画および開催

#### 1) 企画展示

太田記念美術館において以下のとおり展覧会を開催した。開館日数239日、特別展2回、企画展6回。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、17日間の臨時休館および29日間の開館時間短縮を余儀なくされた。特に上半期は全ての会期が緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置期間内であり、入館者数は伸び悩んだ。人々の外出自粛が続き、入館者数が低迷する中で、SNS等を活用した情報発信を強化し、「オンライン展覧会」の発信等、今後の美術館のあり方を模索し、持続的発展を追求した。

年間入館者数は、当初の目標である42,000名に対し3,152名少ない38,848名(目標対比92%)と、目標には届かなかったが、歌川国芳展、河鍋暁斎展が当初の予測を大幅に上回り、令和3年度の目標予算を達成することができた。

令和3年度	展覧会名	会期	開館日数	入館者数(人)				
				有料	無料	総計	1日平均	うち小中生
企画展	江戸の敗者たち	4/15～ 5/16 ※4/25～5/14は臨時休館	11	1,034	34	1,068	97	18
特別展	鏑木清方と鏑崎英朋 近代文学を彩る口絵 —朝日智雄コレクション	5/21～ 6/20	27	2,410	80	2,490	92	14
企画展	江戸の天気	前期 6/26～ 7/25 後期 7/30～ 8/29	53	5,250	155	5,405	102	78
特別展	没後160年記念 歌川国芳	前期 9/ 4～ 9/26 後期 10/ 1～10/24	41	12,230	343	12,573	307	174
企画展	河鍋暁斎—躍動する絵本	前期 10/29～11/23 後期 11/27～12/19	42	8,809	249	9,058	216	116
企画展	江戸の恋	1/ 5～ 1/30	23	2,998	105	3,103	135	21
企画展	信じるココロ—信仰・迷信・噂話	2/ 4～ 2/27	21	2,471	94	2,565	122	32
企画展	赤—色が語る浮世絵の歴史	3/ 4～ 3/27	21	2,479	107	2,586	123	27
合計			239	37,681	1,167	38,848	163	480

入館料 企画展：一般 800円、大高生600円、中学生以下無料

特別展：一般1000円、大高生700円、中学生以下無料

### 2. 浮世絵その他の美術品の収集、保存

#### 1) 美術品の購入

収蔵品の体系的、通史的なバランス、展示計画を考慮の上、版画を55点購入した。

#### 2) 所蔵品の修復

今年度は所蔵品の修復は行わなかった。

### 3) 収蔵品の保存

浮世絵版画は光に弱く、展示により退色が進むため、作品の展示期間を厳正に管理した。また、温湿度管理、照度管理も厳格に行い、作品保護に努めた。

## 3. 浮世絵美術ならびに江戸文化の啓蒙普及活動

### 1) 講座等の開催

#### ① 対面講座

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く現状を踏まえ、例年実施している江戸文化講座、夏休み子ども講座の開催を中止とした。また、展覧会関連講演会、学芸員によるスライドトーク、若手浮世絵研究者による講演会、日曜映写会も同様に中止とした。

#### ② オンライン配信講座

美術館の公式YouTubeチャンネルにて、学芸員によるスライドトークの動画を配信した。詳細は、4頁の「ウェブサイト、ソーシャルメディアの運用」の項に記載。

### 2) 青少年への教育普及活動

青少年への教育普及活動の一環として、美術鑑賞の機会を幅広く提供するため、中学生以下の美術館入場料を引き続き無料とした。また、教育機関の美術鑑賞教育に協力する等、浮世絵美術の教育普及に努めた。

### 3) 年間パスポート制度

来館者へのサービス向上および浮世絵美術の普及を目指し、例年実施している「太田記念美術館年間パスポート」制度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館の可能性があることから、令和3年度の会員募集は行わなかった。また、令和2年度は臨時休館が長期にわたったことから、令和2年度会員に対する救済措置として会員期間を5ヶ月間延長し、令和3年8月29日までとした。

## 4) 館外協力

### ① 他機関への協力

令和3年度の美術品の貸出実績はなかった。

### ② 調査研究依頼への協力

所蔵品の特別観覧の申請に対し、以下のとおり7件の研究に協力した。

観覧日	観覧者	調査内容
6月29日(火)	浮世絵木版画彫摺技術保存協会 3名	歌川広重 版画3点
8月11日(水)	浮世絵木版画彫摺技術保存協会 2名	歌川広重 版画3点
9月15日(水)	国立国会図書館 1名	葛飾北斎 版本1点
11月16日(火)	千葉市美術館 1名	鳥高斎栄昌他 肉筆画9点
11月30日(火)	筑波大学 1名	歌川広重他 版画119点

観覧日	観覧者	調査内容
1月25日(火)	学習院大学 2名	水野年方 版画41点
2月24日(木)	サントリー美術館 1名	葛飾北斎 肉筆画1点

## 5) 広報活動

### ① マスメディア

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各展覧会において記者内覧会は開催せず、内覧を希望する報道関係者ごとに個別対応をとった。
- ・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、マスコミ各社へ送付した。
- ・浮世絵関心者層の増加、美術館の認知度向上および展覧会のPRを目的とし、新聞、テレビ番組、雑誌等の取材協力を積極的に行った。主な協力内容は以下のとおり。

掲載・放送日	媒体	内容
5月 5日(水)	読売新聞	コロナ禍の中、インターネットに活路を見いだす美術館・博物館を紹介。当館はnoteを利用して有料配信する「オンライン展覧会」が取り上げられた。
5月17日(月)	日本経済新聞	コラム「春秋」欄 緊急事態宣言下の臨時休館と開館再開について取り上げられた。
7月 4日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館アートシーン	「江戸の天気」展を紹介
7月13日(火)	朝日新聞	「江戸の天気」展紹介記事掲載
8月14日(土)	TOKYO MX わたしの芸術劇場	「第19回 太田記念美術館」 「江戸の天気」展を紹介
9月11日(土)	The Japan Times	「没後160年記念 歌川国芳」展紹介記事掲載
9月12日(日)	毎日新聞	「文化の森」欄 当館のTwitterおよびnoteの運営を紹介
9月14日(火)	朝日新聞	「美の履歴書」欄 歌川国芳「流行猫のおも入」を紹介 (「没後160年記念 歌川国芳」展出品作品)
9月19日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館アートシーン	「没後160年記念 歌川国芳」展を紹介
10月16日(土)	テレビ東京 新美の巨人たち	「歌川国芳『相馬の古内裏』×中川翔子」 作品撮影および取材協力(「没後160年記念 歌川国芳」展 展示作品)
12月12日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館アートシーン	「河鍋暁斎－躍動する絵本」展を紹介
1月 1日(土)	TOKYO MX わたしの芸術劇場	特別編「一生に一度は見よう! 片桐仁の妄想美術館」に当館 学芸員が出演し、葛飾北斎「雨中の虎」他、所蔵品を紹介

掲載・放送日	媒体	内容
1月30日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館	「激動の時を生きた浮世絵師 月岡芳年」 作品撮影および取材協力
2月11日(金)	NHK BSプレミアム キュレーターバトル!!	番組の取材・監修協力および作品撮影 Twitterにて「#ヘンな生きもの」等、出題される「お題」に沿い、 全国の美術館・博物館が所蔵品を紹介。当館は歌川芳虎「家内 安全ヲ守十二支之図」を紹介した。

・写真資料の提供を希望するテレビ番組、美術関連書籍、雑誌等に対してその利用目的等を確認の上、貸出を行い、江戸文化、浮世絵美術の普及に努めた。

## ② 印刷物の製作・配布

- ・令和3年度展示案内を館内にて配布した。
- ・各展覧会のポスター・チラシを製作し、館内にて掲示・配布するとともに、美術館、博物館、教育機関、公共機関等への配布を行い、展覧会、催事の周知に努めた。
- ・第38回浮世絵研究助成の募集要項チラシ(日本語/英語)を作成し、館内にて掲示・配布するとともに、美術館、博物館、教育機関、公共機関等へチラシ配布を行い周知に努めた。

## ③ ウェブサイト、ソーシャルメディアの運用

### ◇ウェブサイト

館案内、展覧会、講座等の情報を展開し、年間を通して随時情報の更新を行った。

### ◇Twitter

- ・ロコミによる情報の拡散を狙い、Twitterを活用して展覧会情報、催事等、美術館ウェブサイトと相互に連携した情報発信を積極的に行うことにより、集客力の向上および幅広い年齢層への認知度向上に努めた。
- ・Twitterフォロワー数は令和4年3月31日現在171,165名。昨年度よりも約2万8千名増加した。

### ◇YouTube

集客力の向上および認知度向上のため実験的に開設した、太田記念美術館公式YouTubeチャンネルにて、動画を配信した。主な配信内容は以下のとおり。

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大が続く現状を踏まえ、スライドトークの開催を今年度も中止としたため、展覧会鑑賞の補助として、スライドトークの動画を7本配信した。配信内容は、「江戸の敗者たち」展4本、「赤色が語る浮世絵の歴史」展3本。
- ・オンライン展覧会「異世界への誘い」展、「御利益浮世絵展」を紹介する動画を各1本配信した。

### ◇note

浮世絵美術普及のため、メディアプラットフォーム「note」による情報発信を行った。

- ・幅広い層の人々が浮世絵に親しみを抱くよう、様々な切り口から、浮世絵の情報、浮世絵師の逸話などのコラム、展覧会紹介記事等を執筆し、無料で配信した。

発信記事数：81本

主な記事：「吉原遊郭までの道のりをご案内いたします。」

「歌川広重の梅の浮世絵で春の訪れを感じてみた」

「新選組の土方歳三と戊辰戦争で共に戦った浮世絵師の話」

- ・「オンライン展覧会」と銘打ち、出品作品の画像と解説を有料記事として配信した。実際の展覧会と連動する記事の料金は、基本的に入場料と同一とした。
- ・年間の「オンライン展覧会」購入件数は2,685件で、そのうち今年度配信開始分の購入件数は2,530件だった。詳細は以下のとおり。

配信開始日	記事名	購入件数	内容
4月 2日(金)	【オンライン展覧会】 「江戸の凸凹」展	112	令和元年度開催展覧会のアーカイブズ
4月 9日(金)	【オンライン展覧会】 「異世界への誘い ー妖怪・霊界・異国」展	456	同上
4月15日(木)	【オンライン展覧会】 「江戸の敗者たち」展	248	実際の展覧会と連動
4月24日(土)	【オンライン展覧会】 「浮世絵動物園 ー歌川広重「名所江戸百景」展	186	オンライン展覧会の体験版 価格は200円
4月29日(木)	【オンライン展覧会】 「コロナ退散祈願！ 御利益浮世絵展」	133	同上
5月21日(金)	【オンライン展覧会】 「月岡芳年ー血と妖艶」第1章 血	106	令和2年度開催展覧会のアーカイブズ。3つのテーマで構成された展覧会を、テーマごとの購入ができるようにした。
6月 6日(日)	【オンライン展覧会】 「月岡芳年ー血と妖艶」第2章 妖艶	51	
6月 9日(水)	【オンライン展覧会】 「月岡芳年ー血と妖艶」第3章 闇	49	
6月29日(火)	【オンライン展覧会】 「江戸の天気」展(通期)	136	実際の展覧会と連動。前期、後期、通期の3種を配信した。前期・後期は各800円、通期は割引価格1,400円とした。
6月29日(火)	【オンライン展覧会】 「江戸の天気」展(前期)	16	
7月30日(金)	【オンライン展覧会】 「江戸の天気」展(後期)	11	
9月14日(火)	【オンライン展覧会】 「没後160年記念 歌川国芳」展(前期)	297	実際の展覧会と連動 9/14～11/28の期間限定配信
10月 7日(木)	【オンライン展覧会】 「没後160年記念 歌川国芳」展(後期)	193	実際の展覧会と連動 10/7～11/28の期間限定配信
10月31日(日)	【オンライン展覧会】 「河鍋暁斎ー躍動する絵本」展(通期)	188	実際の展覧会と連動 割引価格1,400円とした。
1月 5日(水)	【オンライン展覧会】 「江戸の恋」展	181	実際の展覧会と連動
2月 6日(日)	【オンライン展覧会】 「信じるココロー信仰・迷信・噂話」展	121	同上
3月 5日(土)	【オンライン展覧会】 「赤ー色が語る浮世絵の歴史」展	46	同上

## 6) 他館との連携

- ① 千葉市美術館と連携し、太田記念美術館年間パスポート会員・千葉市美術館友の会会員の相互割引サービスを引き続き行った。

- ② 山種美術館と連携し、以下のとおり、広報協力を行った。
- ・「没後160年記念 歌川国芳」展において、山種美術館にて開催の「速水御舟と吉田善彦一師弟による超絶技巧の競演」展(9月9日～11月7日)と、ポスターの相互掲出、チラシの設置、入館料の相互割引を行った。
  - ・山種美術館公式YouTubeのライブ配信「太田記念美術館×山種美術館 特別対談企画「天気はどのように描かれてきたかー日本絵画と浮世絵を例にー」」に当館学芸員が出演した。

## 7) 地域との連携

- ① JR渋谷駅、恵比寿駅、原宿駅を結ぶエリアの文化施設連携事業「あ・ら・かるチャー」に今年度も参加し、館内にて紹介冊子を配布するとともに、入場料の相互割引に協力した。
- ② 東京都が行う外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」に引き続き参加した。施設割引特典付ウェルカムカード持参の外国人観光客に対して入場料割引を行うが、当年度実績は0件だった。
- ③ 東京地下鉄株式会社、東京都交通局の行う観光客向けサービス「ちかとく」に引き続き参加し、対象乗車券の提示により入場料割引を行った。
- ④ 東日本旅客鉄道株式会社の開催するウォーキングイベント「駅からハイキング」に協力し、イベント参加者に対し、入場料割引の特典を提供した。  
イベント内容：12月3日～7日 文化・歴史とスポーツのまち千駄ヶ谷の晩秋ウォーク

## 8) ミュージアムグッズ等の制作・販売

- ① 来館の記念となり、来館者が商品購入を通じて美術に親しみ、関心を深めるためのミュージアムグッズ等を制作、販売した。また、展覧会に関連したグッズ、復刻浮世絵版画、浮世絵関連書籍等を販売した。  
当館のミュージアムショップは美術館入館受付と兼ねているため、限られたスペースの中で来館者のニーズに沿うべく、販売商品を考慮のうえ選定し、充実を図った。  
今年度に制作した美術館オリジナルのミュージアムグッズは「歌川国芳」展に合わせて制作した絵はがき等、11種。
- ② 株式会社フェリシモと、「暮らしの中で楽しむアート」をコンセプトとして、コラボレーション商品を下記のとおり共同開発し、当館のショップにおいても令和4年1月より取り扱いを開始した。
- ・歌川芳員の「東海道五十三次内 大磯をだはらへ四り」に描かれた珍獣“虎子石”を、ぬいぐるみとして立体造形で再現した商品を2種制作。商品名は「虎子石もっちりポーチ」、「虎子石おすわりクッション」。
  - ・歌川芳虎の「家内安全ヲ守十二支之図」をぬいぐるみとして立体造形で再現した商品を1種制作。商品名は「毎年使える干支飾り 家内安全ヲ守十二支マスコット」。

## 9) その他

- ① 各展覧会毎に作品タイトル、主だった展示解説について引き続き和英表記を行い、英語版作品リストを作成した。また、英語対応の可能な事務職員が常駐し、外国人観光客の受け入れ態勢の充実に努めた。
- ② 特別展「没後160年記念 歌川国芳」展において、会期中2回目以降の来館者に対し、リピーター向け入館料割引を実施した。

- ③ 内閣府と国立国会図書館が共催する「第5回デジタルアーカイブ産学官フォーラム」(令和4年1月26日開催)に当館学芸員が登壇し、オンライン展覧会についての事例報告を行った。

#### 4. 浮世絵研究者の育成および助成

- 1) 内外の新進浮世絵研究者育成のため、第38回浮世絵研究助成を公募し、令和4年2月3日、応募5編全てを選考委員会で審査した結果、次の研究テーマ2編を選入とした。

入選者のうち、太田丈太郎氏の研究テーマは、ロシアへの渡航が必須であり、昨今の国際情勢では、少なくとも令和4年中の渡航は極めて難しいため、助成金の授与を令和5年3月まで保留とした。状況が劇的に改善し、調査研究が可能となった際は速やかに授与する予定である。

選考委員は、河野元昭氏(東京大学名誉教授)、及川茂氏(日本女子大学名誉教授)、大久保純一氏(国立歴史民俗博物館教授)、大石学氏(東京学芸大学名誉教授)、鈴木章生氏(目白大学教授)の5名。選考委員の肩書きは選考会当時のもの。

入選者	入選研究テーマ	助成金
形井 杏奈	二代歌川広重の作品についての調査研究	455,000円
太田 丈太郎	アンナ・オストロウーモワ=レーベジェワの木版画に見る江戸錦絵の影響について	300,000円

- 2) 令和4年3月刊行の『太田記念美術館紀要 浮世絵研究 第12号』に、令和元年度第36回浮世絵研究助成入選者である安田吉人氏の、助成による研究成果に基づいた論文の寄稿を受け、掲載した。
- 3) 浮世絵研究者の育成を目的として、研究成果発表の機会を提供することにより、研究活動の支援ならびに研究者相互の交流を図るため、例年開催していた若手研究者の講演会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開催を見送った。

#### 5. 浮世絵等の資料収集・整備、調査研究および出版

##### 1) 作品の調査研究

- ① 展覧会開催やSNS等での情報発信のため、収蔵品の調査研究を行った。また、特別展開催に向けて他の美術館、博物館、ならびに個人所蔵の関連作品の情報収集を行うとともに調査研究ならびに出品交渉を行った。
- ② 展覧会毎に、来館者の鑑賞体験の充実を支援するための解説パネルの原稿を執筆した。

##### 2) 資料・図書の充実

- ① 収蔵品の調査研究、図録・リーフレット等制作のため、写真撮影を行った。
- ② 作品管理の簡便化を図るため、主要収蔵品についてデジタルデータ化を進めた。
- ③ 展覧会開催および調査研究に必要な図書資料等を購入した。
- ④ 新収蔵品について作品情報データベース、美術品目録、作品カードの整備を行った。



### 3) 展覧会図録等の刊行

① 以下の展覧会の開催にあわせ、図録を刊行し、当館学芸員の研究論文を掲載した。

- ・「没後160年記念 歌川国芳」展  
渡邊 晃 「国芳と世相」  
赤木 美智 「歌川国芳の刷物「不二伍番之内」にみる風景表現」

② 「江戸の天気」展の開催にあわせ、リーフレットを刊行した。

③ 『太田記念美術館紀要 浮世絵研究 第12号』を刊行し、当館学芸員の研究論文を掲載した。

赤木 美智 「一蝶・豊広・広重との淀の川舟」

④ 以下の書籍の監修、執筆を行った。

- ・『浮世絵動物園』  
監修：太田記念美術館 執筆：日野原健司、渡邊晃、赤木美智  
発行：株式会社小学館(令和3年5月)

⑤ 以下の展覧会の開催にあわせ、「オンライン展覧会」と銘打った記事を執筆し、メディアプラットフォーム「note」を利用して有料で配信した。詳細は「3. 浮世絵美術ならびに江戸文化の啓蒙普及活動」に記載。

- ・「江戸の敗者たち」展
- ・「江戸の天気」展 前期
- ・「江戸の天気」展 後期
- ・「没後160年記念 歌川国芳」展 前期(展覧会期中のみの期間限定配信)
- ・「没後160年記念 歌川国芳」展 後期(展覧会期中のみの期間限定配信)
- ・「河鍋暁斎一躍動する絵本」展 前期
- ・「河鍋暁斎一躍動する絵本」展 後期
- ・「江戸の恋」展
- ・「信じるココロー信仰・迷信・噂話」展
- ・「赤一色が語る浮世絵の歴史」展

⑥ 令和元年度開催の「江戸の凸凹」展、「異世界への誘いー妖怪・霊界・異国」展、令和2年度開催の「月岡芳年ー血と妖艶」展について、「オンライン展覧会」と銘打った記事を執筆し、noteを利用して展覧会アーカイブズとして、有料で配信した。

### 6. 美術館の運営

#### 1) 美術館改修工事

老朽化した設備を中心に改修工事を行った。主な工事内容は以下のとおり。

展示室内送風機更新工事、視聴覚室クロス張替工事、展示室ガラス引戸交換工事、美術館外構雨水桝蓋改修工事、空調機給水管更新工事 他

#### 2) 施設の整備

- ① 来館者が安全、快適に過ごせるよう、適切な保全管理に努めた。
- ② 監視カメラの一部を高角レンズに交換した。
- ③ 自火報受信機のバッテリーを交換した。

- ④ セコムシステムの電源ユニットを交換した。
- ⑤ 視聴覚室倉庫内の防カビ施工を行った。
- ⑥ 収蔵庫加湿エレメント及び給水バルブの交換を行った。
- ⑦ 雨水桝及び雨水管の高圧洗浄清掃を行った。

### 3) 新型コロナウイルスへの対応

- ① 4月23日発出の緊急事態宣言を受けて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日から5月14日までの展覧会期17日間を臨時休館した。
- ② 5月15日の開館再開後、6月20日までの会期中29日間、来館客および関係者の安全確保のため、開館時間を1時間短縮した。
- ③ 「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(公益財団法人日本博物館協会)に沿い、主に以下の取り組みをした。
  - ・ 入館客およびスタッフのマスク常時着用を徹底した。
  - ・ 入館時検温の実施、手指消毒の呼びかけを行った。
  - ・ 美術館入口、手すり、トイレなど、多くの入館者の手が触れる箇所について、消毒および清掃を強化した。
  - ・ 感染症への注意喚起ポスターを美術館入口およびトイレに掲示した。
  - ・ 当館の感染症防止対策、来館者へのお願いを館内に掲示し、ウェブサイト上にも随時情報を更新した。
  - ・ 展示室内の混雑回避のため、団体での入館を当面の間中止とした。

## II 収益事業(美術館建物の一部を店舗として賃貸する事業)

美術館建物の地下の一部を、てぬぐい専門店である株式会社かまわぬに賃貸した。

### III 理事会・評議員会等の開催

令和3年6月16日	令和3年度第1回理事会(決議の省略)	
決議事項	令和2年度事業報告および収支決算の承認の件	書面決議
	評議員の候補者承認の件	書面決議
	監事の候補者承認の件	書面決議
	理事の候補者承認の件	書面決議
	評議員会開催の件	書面決議
令和3年6月25日	令和3年度第1回評議員会(決議の省略)	
決議事項	令和2年度事業報告および収支決算の承認の件	書面決議
	評議員の選任の件	書面決議
	監事の選任の件	書面決議
	理事の選任の件	書面決議
令和3年7月6日	令和3年度第2回理事会(決議の省略)	
決議事項	太田幹人を代表理事に選定し、理事長とする件	書面決議
	大塚和晴を代表理事に選定し、副理事長とする件	書面決議
令和4年3月23日	令和3年度第3回理事会(決議の省略)	
決議事項	令和4年度事業計画および収支予算承認の件	書面決議

### IV 官公庁への届出等

令和3年6月26日	内閣府へ事業報告等の提出(令和2年度)を電子申請
令和3年7月31日	内閣府へ変更の届出(代表者の変更、理事の就退任、評議員の就退任)を電子申請
令和4年3月23日	内閣府へ事業計画書等の提出(令和4年度)を電子申請

## 令和3年度事業報告の附属明細書について

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和4年6月

公益財団法人 太田記念美術館